

何事も我が計らいに

非ず・・・

『何事も我が計らいに非ず』昨年、台風と地震と天変地異が数知れず起

り、人身は乱れ、作物は底をつき、クマが養鶏所の鳥を四十羽食べ散らかすという、正に自然の調和が崩れたことが証明された、大変苦難の多き一年だった。私達を「生かして」下さっている仏様が何か私達人類に対して、お知らせ下さっておいでなのではなからうか？と素直に感じた。だとしたら、私達はそれらの苦難をどの様にとらえていかなければいけないのか？

天災のみならず、身近に私達は、常に生きている限り苦難（人災）と向き合い、その苦難に悩まされ続けている。しかしそれらの苦難をどう受け止めるかで、その後の人生が一変する。考えてみると、私達は「オギヤー」と産声を上げた時点から、苦しみの代名詞である「死」に向かって一歩ずつ歩み始める生き物だ。ハッキリ言うと、この世の中は苦しみに満ちている。それを証拠に、赤ち

やんの「オギヤー」という産声は、

実は「助けてよ。苦しいよ。嫌だよ。」という、もがき苦しんでいる人間の感情が込められている。悲しいかな決して、「産んでくれて有難う」というものではないのですよ。つまり我々は生まれたその時から、死を迎えるその時まで、ずっと苦しみの中にいるということになる。

私達がこれまで不幸だ、災難だと恐れ嫌っていた人生の苦難は、実は『自然のルールから外れたぞ、それでは不幸になる一方だぞ』と、仏様が愛情をもって、注意してくれている赤信号だと受け止められはしないだろうか？苦難は人を苦しめる為でも、殺すためでもなく、実は私達を正しく生かし、本当の幸福の道に立ち返らせてくれる為のむちであり、証明なのではなからうか？だとすれば自分に降りかかる苦難こそ、私達が本当に感謝すべき材料になるはずだ。「運命は自ら招き、境遇は自ら造るものである」と思う。

仏様のお計らいである苦難の人生の中にあつて、私達日本人は近年「感謝する心」が欠落しているように思うのは私だけでしょうか？「感謝の心」が私達にとって一番大事な気持ちだろうと思う。

感謝する心が欠落した結果、毎日の新聞紙上を騒がせている命の希薄さ

から起こる事件・事故が後を絶たない。

日本が世界の最長寿国となりながら、世界に冠たる自殺大国でもある。いま自殺者の数は年間三万数千人もいる。

ベトナム戦争を十五年やって亡くなったアメリカ人の数が約六万四千人。私達は爆弾も落ちない平和の中で、たったの二年間でベトナム戦争よりも多くの人命を失っているわけです。歴史を紐解くと、こんなに日本人の命の軽い時代はかつてなかった。だから今私達が一番問題にしななければいけないのは、政局の混迷でも経済の破綻でもなく、精神のデフレなのです。心の不良債権が山積みになっている。また、自殺するということは、自分の命を軽く捨てることができるわけで、自分の命の重さが感じられない人は、周りの人の命も同じように軽く考えているというわけだ。だから自殺が増えれば、同時に他人を殺める事件も恐らく増えていくということになるだろう。実際にこの間までは母親が息子を殺す事件に驚いていたら、この頃では祖母が孫に手をかけるようになった。おばあちゃんにとって孫は目の中に入れても痛くない存在の筈だろう。こういうことがちつとも珍しくない状況になったのはなぜか？やはり「命を頂いている」という根本の精神が軽くなった証拠ではなからうか？この根本精神を取り戻さない

限り、日本で起こる忌々しい天変地

異が昨年にも増して今年も起こること間違いないものと思う。私達は「生きていく」という感覚から、「生かされている」という事実を、謙虚に受け入れなくてはいけない。謙虚心とは、感謝の気持ちと同時に出来るものであり、互いに譲り合う気持ちが出てくる心である。お釈迦様の教えに「全ての迷いは執着から生まれる」とある。執着さえしなかったら心にとらわれがなくて、心が楽になつて自由になつてくる。私は生かされているのだ、「ありがとう（ごさい）」を唱えていけばそういう心になつてくる。仏様の心がよく分つてくる。「ありがとう（ごさい）」とは言い換えると「南無妙法蓮華経」ということである。この苦難多き人生の中で私達は、今一度「心の原点回帰」を図らなければいけない時期にきています。まずは自分の足元を見つめ直し、「生かされている」事実に感謝する気持ちを「南無妙法蓮華経」を通して、実践して頂きたいものとお切にお願いを申し上げます。すると自ずから、幸福な人生が目の前に広がっていきます。

副住職 谷川 寛敬

合掌